



# Monthly Guide 2021年 3月号

りそなグループのYouTubeで、最新のマーケット情報を配信しております！



## 主要マーケットの動き

■世界株式は反発しました。月前半は景気回復期待の高まりで、日経平均株価が3万円の大台を回復する等、株高が進みました。月後半は米長期金利の急上昇が警戒され、上値を抑える展開となりました。

■債券市場では売りが先行しました。1.9兆ドル規模の米追加経済対策の成立期待などを受け、米10年国債利回りは一時1.6%台に上昇、日本10年国債利回りは0.175%と5年ぶりの高水準を付けました。

## ● 今月の金融環境



米国

パウエルFRB(米連邦準備制度理事会)議長は2月の議会証言で、物価と雇用の回復はFRBの目標に程遠いとし、早期正常化観測の高まりを牽制しました。



欧州

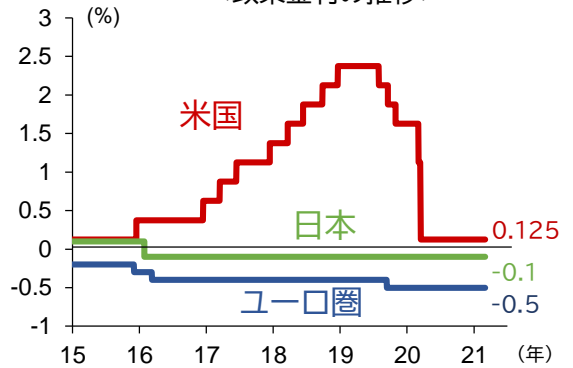
ECB(欧州中央銀行)は1.85兆ユーロ規模の資産買い入れを2022年3月まで継続する方針です。最近の金利上昇を受け、追加的な措置が採られるか注目されます。



日本

日銀は次回3月の会合で、現行の金融政策の点検結果を公表します。ETFの買い入れ額や長短金利操作(YCC)の変動許容幅などの見直しが予想されます。

<政策金利の推移>



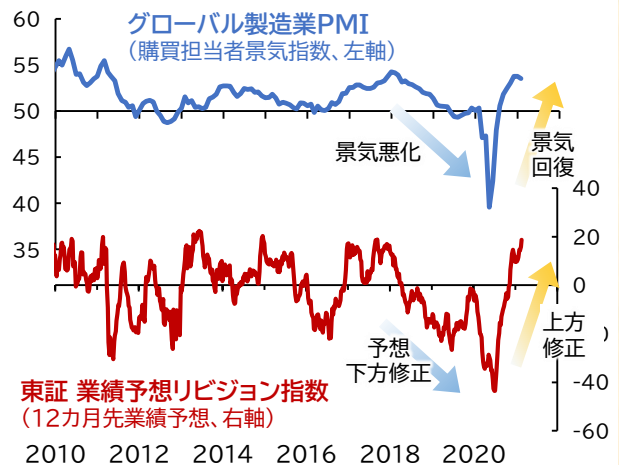
※米国:FFレート誘導金利(中央値) ※ユーロ圏:中銀預金金利  
※日本:日銀当座預金金利(マイナス金利は日銀当座預金の一部に適用)

## ● 今月の注目指標 グローバル製造PMIと日本企業の業績リビジョン(修正)

2月央に日経平均株価が1990年8月以来となる3万円の大台を回復しました。背景には世界的な製造業活動の活発化と企業収益の改善期待があります。

日本株市場は世界景気に敏感な市場と言われます。日経平均株価の業種別構成比率を見ると、世界経済の影響を受けやすい資本財・情報技術・一般消費(自動車含む)・素材セクターの比重が3分の2近くを占めます。

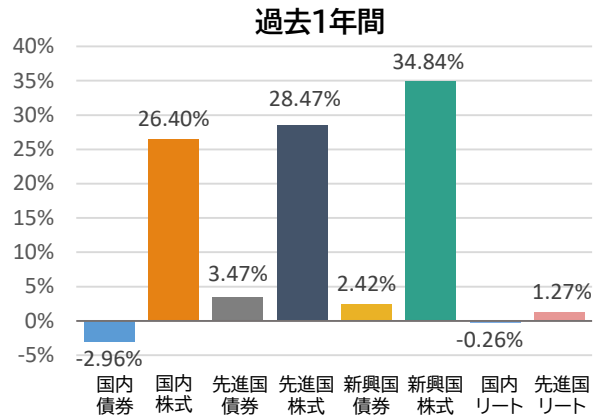
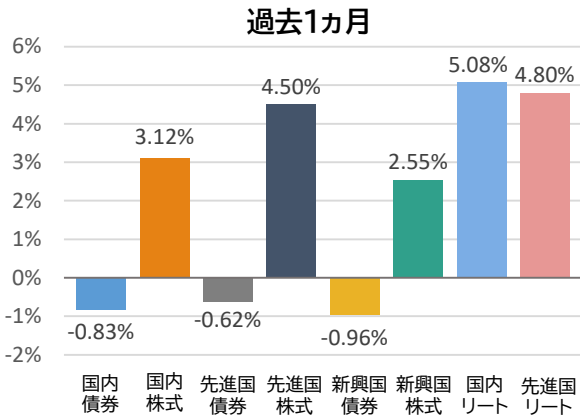
日本株の先行きを見通す上では、世界景気の代表的先行指標であるグローバル製造業PMI(購買部指数)を点検することが有効です。同指数は右図の通り、日本企業の業績予想リビジョン(修正)指数と並行して動く傾向があります。これは世界の製造業の購買部担当者の業況判断の変化が日本企業の収益動向(特に製造業)に直結していることを示唆するものです。足元の拡大がいつまで続くか注視が必要です。



【出所】Haver analytics、ブルームバーグ、リフィニティブの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成。

※本資料の使用に際し、最終ページの<本資料に関するご注意事項>をご覧ください。

## 2月末基準 各資産別 月間騰落率と振り返り (円換算ベース)



※ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成。※国内債券：NOMURA-BPI総合、国内株式：東証株価指数(TOPIX、配当込み)、先進国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)、先進国株式：MSCI-KOKUSA指数(配当込み、円ベース)、新興国債券：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円換算ベース)、新興国株式：MSCIエマージング・マーケット指数(配当込み、円換算ベース)、国内リート：東証REIT指数(配当込み)、先進国リート：S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円ベース)

### 国内債券

10年国債利回りは、一時0.175%と日銀がマイナス金利の導入を決定した2016年1月29日以来の高水準を付けました。海外金利高と次回の日銀政策決定会合で公表される政策点検に対する警戒感から、長期・超長期を中心に金利は強含みで推移しました。政策点検では、長期金利の変動許容枠の拡大やETF購入の柔軟化などの公表が予想されています。

### 先進国債券

米10年国債利回りは、一時1年ぶりの高水準となる1.6%台まで上昇しました。新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、感染拡大ペースが鈍化したことや1.9兆ドル規模の追加経済対策案の進展が売り(金利は上昇)材料となりました。欧州では、ドラギ前ECB(欧州中央銀行)総裁の伊首相就任の期待から、伊国債と独国債の利回り差の縮小が進みました。

### 新興国債券

新興国債券(円建て)は、米国金利の上昇が重しとなりマイナスパフォーマンスで終わりました。国別では、中央銀行が成長見通しを下方修正したインドネシア、メキシコがマイナス寄与となる一方、資源価格上昇の恩恵を受ける南アフリカ、チリのプラス寄与が目立ちました。

### 国内リート

東証リート指数は、幅広く見直し買いが入り、2000ポイントの大台を一時回復しました。東京ビジネス地区の空室率が11か月連続悪化するなど、オフィス市況の底入れはまだ見通せないものの、株式に比べた出遅れ感や4%近い配当利回りが投資魅力となり、見直し買いが膨らみました。

<本資料に関するご注意事項>

○本資料はりそなアセットマネジメント株式会社が作成した投資環境等に関する情報提供資料であり、販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。○本資料の作成にあたり当社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に示されている当社の見直し、予測、予想、意見等(以下、見直し等)は、それぞれ作成時点のものであり、将来予告なしに変更されることがあります。また当社の見直し等は、将来の景気や証券価格等の動きを保証するものではありません。取引時期などの最終決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。○本資料に関わる一切の権利はりそなアセットマネジメント株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。

<ファンドの設定・運用> ■りそなアセットマネジメント 商号等/りそなアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2858号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

### 国内株式

日経平均株価は、約30年半ぶりとなる3万円の台を回復しました。TOPIXは一時、1991年5月以来の高値水準まで上昇しました。1991年当時の予想PERが30倍台であったのに対し、現在は他市場並みの17倍台で推移しています。東証33業種の騰落では出遅れていた空運、銀行、非鉄など割安株や景気敏感業種の上昇が目立ちました。

### 先進国株式

米国では、NYダウなど主要株価指数が揃って最高値を更新しました。ワクチン接種の進展から経済正常化への期待が高まり、景気に敏感な業種が牽引役となりました。月後半は、長期金利の急騰が警戒され成長株を中心に売りが先行しました。欧州では、独DAX指数が最高値を更新した他、ドラギ首相の就任が決まったイタリア市場の上昇が目立ちました。

### 新興国株式

新興国株式(円建て)は、世界的株高を追い風に、5か月連続で上昇しました。先進国市場同様、月央にピークを付けた後、月末にかけては反落しました。国別では、インド、中国、台湾のプラス寄与が目立つ一方、ブラジルが2か月連続でマイナス寄与となりました。

### 先進国リート

先進国リート指数は、4か月連続で上昇しました。国別では、移動制限措置を再延長したドイツが下落する一方、米・英・香港の上昇が目立ちました。セクター別では、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展が好感され、ホテル・リゾート・娯楽セクターは20%超の大幅上昇となりました。